

基本目標⑤「環境を大切に人が育つまち（環境教育）」

記録：グループリーダー 本多 登美子

参加者は20代から60代以上まで、幅広い年齢層でした。下記のように、A、B、Cの3段階に分けて意見交換をしました。

A. 大津市の環境教育という視点から、その推進を阻む要因

- ①リスクを感じたらその活動をやめてしまう。
- ②「環境学習船 megumi」を使ったびわ湖学習は有効と理解していてもそのお金がない。
「うみのこ」や「やまのこ」学習の支援をするにしても、旅費等のお金がない。
- ③環境教育を推進するスタッフがまだ少ない。高齢者パワーが機能していない。
等、「リスクマネジメント」・「お金」・「人」についての協働の体制や環境人を育てる仕組みが不十分であることが明らかにされました。

B. 10年後・20年後の大津市について

- ①環境教育推進を阻む要素が解決し、安心して自然体験学習などが実施でき、「環境人」として活動できる人が子どもから高齢者まで広がっている。
- ②交通機関のCO2排出量削減を目指して技術革新が進んでいる。
- ③住みたい！また来たい！大津市である。

C. 今どんなことができるか。どんなことをしなくてはならないか。

- ①協働の取り組みを構築して、「リスクマネジメント」（危機管理）をきちんとする。
- ②人間の活動により生じる「プラスチックごみ」問題に大津市一丸となって取り組むことにより、滋賀県をけん引する。
- ③交通機関から出るCO2排出などについて、技術革新の取り組みを企業に期待する。

【開催事業の報告】

意見交換会（アンケート報告・ワークショップ）「地域で地球温暖化防止にどう取り組むか」

昨秋、自治会等地域で実施した「ごみ減量」や「家庭における省エネ・創エネ」の実態調査の結果を持ち寄り、更なる温暖化防止のために地域で取り組めることについて意見を交換し、今後について考えました。

- ・ 日時：2月15日（土）14時～16時
- ・ 場所：明日都浜大津ふれあいプラザ4階視聴覚室
- ・ 参加者：30人
- ・ 内容：（1）きょうの意見交換会の趣旨・全体のまとめ報告（大津市地球温暖化防止活動推進センター）
（2）取り組み自治会の報告（富士見学区の自治会、四ッ谷町自治会、湖城が丘自治会等）
（3）自治会等地域の関心事を参考に次のテーマに分かれてグループで意見交換。
 - ①ごみ（生ごみ・プラスチックごみ）を減らし資源として活用する
 - ②家庭で電気を「創り・蓄え・賢く使う」
 - ③未来をひらくエネルギー・水素を活用する

グループ意見交換では、生ごみ堆肥化と農作物づくり希望者とのマッチング、プラごみゼロ宣言の推進、LED化推進、太陽光発電普及の相談会開催、地産エネルギーとして水素発電に関する情報収集・発信などに取り組もうという意見が出されました。



- ・ その他：グループで出た意見に基づき今後、地域で推進する取り組みについて、いくつかの学習会が発足する見込みです。

大津市地球温暖化防止活動推進センター（特定非営利活動法人 おおつ環境フォーラム）
〒520-0047 大津市浜大津 4-1-1 明日都浜大津 4F Tel：077-526-7545 Fax：077-526-7581
E-mail：info@otsu.ondanka.net HP：http://otsu.ondanka.net/ 編集責任：森口 行雄



12/7、家庭の省エネ相談

大津市地球温暖化防止活動推進センター情報誌

センター通信

No.15

2020年 春号

特集 大津市の環境の「いま」と「これから」をみんなで考えましょう

令和2年2月1日（土）明日都浜大津ふれあいプラザで開催した「大津市環境基本計画（第3次）」策定に向けての意見交換会の内容を特集します。大津市による講演と5つのテーマに分かれての意見交換の概要です。

【講演要旨】 大津市の環境の「いま」と「これから」

大津市環境政策課 副参事 古田 幸子

大津市の環境の「いま」を知っていただき、「これから」の世代につなぐ、住み続けたいまち大津について考える資料として、大津市の環境の現状と環境基本計画についてご説明します。



大津市の「計画」

大津市の行政計画はたくさんありますが、環境については、「大津市環境基本計画」と地球環境問題に対する行動計画である「アジェンダ21 おおつ」があります。

計画では、「みんなで築く持続可能な湖都（こと）～環境人（かんきょうびと）がひらく大津の未来～」を目指す環境像としています。「みんな」には市民・事業者・行政が協働で計画を推進していく意味が込められています。「環境人」とは大津市独自の表現で、人と自然、人と社会環境の関係について自ら関心をもち、主体性をもって責任ある行動を実践する人を指しています。5つの基本目標を掲げ、それぞれに対する施策を設定しています（下図）。

計画期間が令和2年度で終了することから、次期計画の策定を予定しています。

大津市の環境の「いま」

市の取り組みの一例として、市民のみなさんが自然とふれあうきっかけづくりとなるように、また、大津市の自然を知る手段の一つとして、身近な環境（生きもの）市民調査を毎年実施しています（令和2年度はタンポポ）。その他、地球温暖化に関する啓発事業や自然体験のイベントなどを実施しています。

大気や河川水質については、ほぼ、環境基準を満たしており、健康上大きな問題がでるような状況ではありませんが、市域からの温室効果ガスの排出量については、残念ながら、目標の達成は難しい状況です。

令和元年に実施した市民意識調査の結果をみると、自然とのふれあいや資源の循環、健康で快適な生活などについては概ね高い評価でしたが、地球温暖化に関する取り組みについての評価は低い結果となりました。

大津市の環境の「これから」

これからの10年を考えるに当たって、「持続可能性」や地産地消のような「地域での循環」の視点をいれ、地球温暖化に関するパリ協定での目標を着実に達成するための対策が求められています。大津市の環境の「これから」のために、行政だからできることもありますが、市民・事業者のみなさんとの協働でこそ実現できることもたくさんあると思います。この意見交換会で出されたご意見を踏まえ、これから新しい計画をつくる作業をしていきます。

大津市環境基本計画

【目指す環境像】

みんなで築く持続可能な湖都
～環境人がひらく大津の未来～

【基本目標】

- ①人と豊かな自然環境が共生するまち
- ②資源循環が構築されたまち
- ③低炭素社会が実現したまち
- ④健康で快適に暮らせるまち
- ⑤環境を大切に人が育つまち

5つの基本目標についてグループに分かれて意見交換をしました

基本目標①「自然との共生」

記録：グループリーダー 長崎 雄二

「自然との共生」というテーマで9名の参加者が、大きく4つの内容について意見交換をしました。

「**びわ湖や瀬田川の水質**」：びわ湖にいろいろな汚濁物質が流入している。ゴルフ場で撒かれる除草剤、田畑に撒かれる農薬や肥料、道路の凍結防止剤もびわ湖に流入している。さらに、汚水処理に使われる塩素系薬剤によって魚介類の生態に悪影響が出ていることや、マイクロプラスチック問題についても意見が出されました。

「**森林**」：放置林や無秩序な伐採による自然破壊、野生動物の被害と保護について、意見が出されました。森林を伐採しての太陽光パネル設置の是非や野生動物駆除のために使用された散弾銃の空薬莢の放置などの問題が提起され、「太陽光パネルは建物の屋上や耕作放棄地に設置すべきだ。」「森林整備作業には一般市民が参加できるようにして、薪をお土産にもらえるようになると両者ウィンウィンの関係になるのでは。」「野生動物の駆除問題では、駆除後に空薬莢と交換する形での補助金支給を。」という解決案が出されました。

「**生き物**」：びわ湖の在来種が減少し、絶滅を危惧するという意見や、動植物の市民調査を親子で実施することで自然の生き物と触れ合う機会を増やしたいという意見が出されました。

「**自然とのふれあい**」：若い世代の親子がびわ湖や川で遊ぶなど自然との触れ合いが少ないことを解決しようという観点で話し合い、「熟年世代が環境活動の主体となっており、若い世代の参加が少ないので、中学校や高校で部活動のような形で自然環境保全に参加してくれる体制ができればいい。」「環境保全活動はボランティア活動であるため資金不足になり、活動内容や活動規模が縮小していく。市や県や企業などからの助成や寄付が頂けるとありがたい。」という意見が出されました。

基本目標②「資源の循環」

記録：グループリーダー 森口 行雄

最初に参加者の思考を整理しやすくするために3つの視点を決めました。

- ①「あなたが大切と思う資源は何ですか」
- ②「なぜ大切ですか。その資源を循環させるためにどんな問題がありますか」
- ③「その問題を解消するにはどのような対策が必要だと思いますか」

順を追って出された意見を整理すると、

①について、大切な資源として、水、森林、田畑（土地）、太陽・石油等のエネルギー源、水草、紙ごみ・プラスチックごみ・食品ごみ・廃油等の廃棄物、下水汚泥、生き物、など多様なものがあげられた。

②と③の主な意見について、

「**水**」「**森林**」：森林はきれいな水を生み出す源で生物の命を守ってくれる。琵琶湖の源も森林にある。森林に人の手が入らず放置され災害につながる。植林によって保水機能を維持しCO₂を吸収させて温暖化防止に役立てるべきである。間伐材の活用も大切で、森林整備に市民やNPOの力を活用する仕組みを考えてはどうか。

「**太陽等のエネルギー源**」：経済を成長させ生活を豊かにするにはエネルギーは不可欠である。天津市においても地産地消のエネルギー源を確保しなければならない。再エネの普及や下水汚泥の資源化等を促進する必要がある。エネルギーに関わる経済の自立化を図ることも大切で、地元産のエネルギーとしてバイオマスや水素の活用を進めるべき。

「**廃棄物**」：廃棄物として「燃やす、埋める」という処理の仕方ではなく、資源としてリサイクルすることが全地球的な重要課題である。「ごみを出さない・ごみを減らす」という生活上の問題とリサイクル率を向上させるという技術的な問題がある。技術面では事業者との協働が不可欠。生ごみや水草は堆肥化して耕作放棄地で有効利用を進めるべき。

「**その他**」：「これまでの常識」とらわれない意識改革が必要。資源の循環を実現できる仕組みを官民協働で構築する。10年先を考えるなら子どもの教育が大切。

基本目標③「エネルギーと地球温暖化」

記録：グループリーダー 山 和孝

1. 現状認識

①近年の集中豪雨や台風の襲来など天津市でも大きな被害が出ている現象が続いており、この異常気象が地球温暖化によるものとの認識が広がってきている。

②ただ、地球温暖化防止のために100%行動に移せている市民は一握りだと思われる。

2. なぜ行動に移せないか

①やはり、経済的価値を考慮して行動されるという方が多く、これをやれば経済性も利便性も向上するというプランが重要である。

②特に企業市民の場合は雇用を守るとか、利益を上げなければならないという経済的価値に重きを置かれるのは当然と言える。

③石炭運動の時は汚い排水を出したら猛烈なバッシングを受けたが、CO₂の場合は今のところそこまでのバッシングはない。

3. どのような方法で地球温暖化防止ができるか

①基本的に再エネ活用と省エネの徹底しか方法がない。一縷の望みはCO₂回収とリサイクルが100%実現できれば化石燃料も使用継続ができるが、まだ研究段階にある。

②単純化していうなら再エネと省エネをしないと損だと分かってもらえる仕組みにすれば、もっと取り組まれる市民も多くなると思われるので、そのメニューをできるだけ多く提供できるかどうか今後の知恵の出どころである。2030年の中間目標および2050年の脱炭素化社会実現のキーワードでもある。

みんなで頑張って美しい地球を守り、明るい未来づくりに努力していきたい。

基本目標④「きれいな水・きれいな空気・住み良い町」

記録：グループリーダー 家城 弘和

当グループでは主として「ごみ問題」「土壌汚染」「川の水質」「高齢化と車なしでは生活できない環境」「高齢化と自治会運営」が主な議論となりました。

「**ごみ問題**」：各家庭でごみ減量の様々な工夫をしていることやセタシジミの復活活動に参加している人からは、定期的に清掃活動を行っているが、釣り人によるたばこの吸殻や空き缶のポイ捨ての多いことが報告された。まだまだ不法投棄や廃プラ問題など意識改革と行政の対策強化が望まれる。とりわけマイクロプラスチック問題で、スーパーの商品は殆どプラスチック包装になっており中には過剰なものもある。ペットボトルも含めプラスチックの利用を止めてはどうか。

「**土壌汚染・川の水質**」：天津市が南北に細長く山も抱えていることから、山に不法投棄された廃棄物は下流を汚染する。市街地は山と水でつながっている意識が必要ではないか。管理を河川流域全体で考えるべき。

「**高齢化と車なしでは生活できない環境**」：湖西の住宅団地では車なしでは生活できない環境にある。一方高齢化が進み、高齢者の事故等も増え免許返納の動きも高まる状況の中で、生活の足を確保する方法の検討が急務となって来ている。コミュニティバスの運行はもちろん、乗り合いタクシーや乗合マイカー等、法律面や事故対応等整理しなければならない問題はあるものの、知恵を出し合いボランティア的発想も含めて、地域で気軽に利用できるモデルを作っていく必要がある。

「**高齢化と自治会運営**」：高齢化により退会や役員回避等、自治会の運営が困難になっている。若い人が多かった時代と同じように「運動会」や「夏祭り」など企画・準備・実行に大きな労力を伴う行事に重点を置くのではなく、変化に合わせて自治会の機能を見直していく必要がある。またこれらの地域に若い人が入ってくるような政策も必要だ。これら生活環境に関する問題はやはり行政の強いリーダーシップが必要であり、積極的な政策を提言し住民の参加を求めつつ前に進めて行かなければならない。